
《論文》

日本語学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用実態分析

——日本語母語話者との比較を通して——

趙 海城 邢 文柱

1 はじめに

本稿¹⁾は日本語の補助動詞「てしまう」およびその縮約形「ちゃう」²⁾に関して、日本語母語話者（以下「母語話者」と略す）の運用状況と比較しながら、学習者の「てしまう」の使用状況を計量的に分析する。本稿は「てしまう」「ちゃう」の前接動詞、後続形式を手がかりに、日本語母語話者の使用状況との類似点と相違点を分析した上で、日本語学習者の使用傾向を母語・環境別、習熟度別に検討し、その使用実態を明らかにすることを目的とする。

「てしまう」「ちゃう」は初級で学習する文法項目（松岡他,2000:47-48）であり、母語話者のコーパスで高頻度に使用されている（江田・小西,2008；中俣,2014）。しかし、動詞の過去形との使い分け問題、感情評価的意味の適切な場面での使用問題などで、中・上級レベルの日本語学習者でも十分に使いこなせないことが指摘される。例えば、市川（1997:124-125）では次のような学習者の誤用例が紹介されている。

- (1) 少し批判的な意見を言ったばかりに、すぐ怒らせた。(⇒怒らせてしまった)
(中国人：1年～2年)
- (2) きこのう徹夜して今朝の5時にやっと宿題をやってしまった。(⇒やり終えた)
(スリランカ人：1年～2年)

OPI データをもとにした分析では、「てしまう」は主に超級レベルで出現するため、話し言葉として上級で教えるのがふさわしいという主張さえも見られる（山内,2009:63）。

本稿では、まず日本語母語話者の会話・談話コーパスを用いて母語話者の「てしまう」「ちゃう」の使用実態を概観する。次に、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス（以下 I-JAS とする）」の対面調査タスクデータを用いて、母語話者と学習者による「てしまう」「ちゃう」の使用実態を比較して分析する。具体的には、まず母語・環境別、習熟度別（SPOT 得点を基に）に「てしまう」「ちゃう」の使用状況を観察し、次に前

接動詞、後続形式の視点から、母語話者と学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用傾向を比較分析することにより、学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用特徴を明らかにする。

2 先行研究と残された課題

2.1 母語話者の「てしまう」「ちゃう」の使用状況

補助動詞「てしまう（「ちゃう」を含む）」について、本動詞「しまう」から「てしまう」への文法化問題、意味拡張問題などについて、日本語学的視点から、従来数多くの研究がなされてきた。

「てしまう」「ちゃう」には、アスペクト的意味（完成相の完了）を持つ場合と感情評価の意味（ムード、モダリティ）を持つ場合とがある。アスペクト的意味が「てしまう」の基本義で、感情評価の意味は文脈の影響を受ける語用論的意味であるとされている（金田一,1955；高橋,1969；吉川,1973；寺村,1984；杉本,1991,1992；守屋,1994；中山,2015）。例えば、学習指導参考書としての松岡他（2000：47-48）では、「てしまう」は「完了」を表す形式の一つであるとした上で、「無意志動詞＋てしまう」のときは「後悔」の意味になりやすく、「てしまおう」のときは完了の意味になるとし、「てしまう」の表す完了は動作の終了を特に強めて表現するものであるとしている。

一方、近年単文レベルでの研究のみならず、文脈重視、談話重視の機運の高まりもあり、使用文脈の中で「てしまう」の意味解釈を行う研究が増えてきている。一色（2011）のように、「てしまう」は文脈によって様々な意味に解釈できることが指摘されている。

中俣（2014：126-129）は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）に出現した「てしまう」を分析し、その前接動詞上位10項目は「なる、する、行く、言う、忘れる、思う、なくなる、死ぬ、消える、出る」の順で、これらの動詞TOP10のカバー率は29.61%であることを示している。また、「てしまう」の後続形式は、言い切りの「てしまった（てしまいました）（17.1%）」、言い切りの「てしまう（てしまいます）（15%）」、接続助詞（8%）、名詞（7.6%）、接続助詞（1.3%）」の順で、過去形が現在形より多く使われているとしている。

従来、大規模なデータから用例収集が難しかったこともあり、管見の限り「てしまう」と「ちゃう」両者の使用状況の差異について積極的にアプローチしたものがさほど見られない。

2.2 学習者の「てしまう」「ちゃう」の習得状況

「てしまう」「ちゃう」の習得に関しては、棚橋（1996）、簡（2018）、砂川（2018）、中俣（2018）、宮部（2018）などの研究がある。

簡 (2018) は話し言葉コーパス『KY コーパス』を用いて、中国語・英語・韓国語を母語とする日本語学習者を対象に、「てしまう」の「完結」、「対抗的」、「遺憾」、「非意図」、「間主観」の5つの用法の習得順序を観察し、習得過程における母語による違い、日本語母語話者との違いを考察している。その結果、中国語・英語を母語とする学習者は韓国語を母語とする学習者と違う習得順序の傾向が見られた。また、日本語母語話者は「遺憾」、「完結」、「間主観」の用法が多く、学習者は「遺憾」、「完結」、「非意図」の用法が多いと指摘している。さらに学習者の「非意図」用法は主に「忘れる」「考える」「なる」の3動詞と結びついて使用されていることを明らかにしている。

砂川 (2018) は「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」の第一次公開データより母語話者15名と学習者105名(5言語学習者15名ずつと自然環境15名、教室環境15名)分の発話データを対象に、「てしまう(「ちゃう」)」の用法と使用場面を分析している。分析の結果、母語話者に比べ、中級レベルの学習者は「てしまう(「ちゃう」)」の使用頻度が少ないこと、過去形の使用に偏ること、「てしまっている」を使っていないこと、前接動詞は典型的な運動動詞に限られることを指摘している。

中俣 (2018) は日中両国大学生・大学院生の接触場面コーパス『日中 Skype 会話コーパス』を利用して、中国人大学生の「てしまう」「ちゃう」の使用状況を分析している。延べ9ペア、38会話(46時間あまり)を分析した結果、中国人学習者は「てしまう」をタ形で多用し、とりわけ「ちゃう」を「ちゃった」という過去形のみ使用しており、中国人学習者は「ちゃった」「てしまった」をひとまとまりの「チャンク」として捉えている可能性があるとは指摘している。

宮部 (2018) は書き言葉コーパス『JCK 作文コーパス』を用いて、意見を述べるテキストと説明を述べるテキストにおいて、「てしまう」がどのように用いられているかを分析している。分析の結果、母語話者に比べ、学習者(JFL環境の中国語・韓国語を母語とする上級日本語学習者)は「てしまう」をあまり用いていないことが分かり、その理由は、初級教科書で学習する「てしまう」は個別的な経験を述べる文で用いられ、意見文と説明文に至ると「てしまう」はより一般的なことがらに用いられるという違いにあると指摘している。

2.3 先行研究の問題点

2.2節で概観したように、近年日本語学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用状況を分析した研究はいくつか見られ、貴重な知見が蓄積されているが、残された問題も少なくない。簡 (2018) における考察対象例(中:27、英:49、韓:29)は少なく、5分類中「対抗的」、「間主観」の用例は0~2例しかなく、習得順序の一般化解釈ができるのかという疑問が残り、またほかの言語を母語とする学習者も同様な習得順序を示すのかという新たな疑問も生じる。砂川 (2018) は「てしまう」「ちゃう」の用法と使用場面を考察しているが、中級レベルに限定しているため、ほかのレベルの学習者の使用状況が不明であり、また日本語学習者数の多い中国語、英語、タイ語、インドネシア語を母語とする学習者の使用状況が不明である。

学習者の使用実態を観察し、母語話者と比べて「てしまう」「ちゃう」の各形式の過剰使用・過少使用を突き止めることにより、効果的な指導法の手掛かりが得られると思われる。

そこで、本稿では、まず日本語母語話者の会話・談話コーパスを用いて母語話者の「てしまう」「ちゃう」の使用実態を概観する。次に学習者コーパスデータを用いて、母語話者と学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用状況を比較分析し、学習者の母語・環境別、習熟度別の使用特徴を探る。分析の際、「てしまう」「ちゃう」の前接動詞、後続形式という視点から、母語話者と学習者の使用特徴を見る。

3 研究対象データおよび検索結果

本稿では、コーパス検索アプリケーション「中納言 (2.4.2)」を利用して、下記コーパスデータを対象に検索を行った。検索した結果、「てしまう」「ちゃう」の使用数は表1に示される通りである。

- ①「日本語日常会話コーパス モニター公開版」(Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC)、50時間分のデータ (データバージョン 2018.12)
- ②「現日研・職場談話コーパス」(『合本 女性のことば・男性のことば (職場編)』)、21時間あまりのデータ (データバージョン 2018.03)
- ③「多言語母語の日本語学習者横断コーパス (International Corpus of Japanese as a Second Language, I-JAS)」の学習者750名と母語話者50名、計800名分のデータで、対面調査8タスク中絵描写を除いた7タスク (データバージョン 2019.05)

表1 CEJC、現日研・職場談話コーパス、I-JAS における「てしまう」「ちゃう」

コーパス	コーパス総語数 (記号等除外した短単位語数)	ちゃう	てしまう	総計
日本語日常会話コーパス (CEJC)	610,959	1843	71	1914
現日研・職場談話コーパス	186,906	598	42	640
多言語母語の日本語学習者 横断コーパス (I-JAS)	母語話者 50名 (246,459)	340	430	770
	学習者 750名 (2,315,251)	439	1857	2296
	2,561,710	779	2287	3066

表1から、母語話者の会話・談話データでは、縮約形「ちゃう」が「てしまう」より10倍以上と圧倒的に多く使われていることが分かる。それに対し、I-JASにおける日本語学習者の発話 (作文) では、割合で見ると「てしまう」は「ちゃう」より4倍以上と多く使われている。母語話者と学習者の人数 (50名:750名) の違いを考慮に入れると、母語話者が日本語学習者より「てしまう」「ちゃう」をはるかに多く使っていることが分かる。

4 結果と考察

4.1 母語話者の「てしまう」「ちゃう」の使用特徴

学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用実態を究明するにあたり、比較参照用に、まず母語話者の会話・談話における使用実態を見てみる。本稿では、CEJCと「現日研・職場談話コーパス」における母語話者の「てしまう」「ちゃう」の使用状況を見る。

4.1.1 母語話者の「てしまう」「ちゃう」の前接動詞の特徴

CEJCと「現日研・職場談話コーパス」の両コーパス(約80万語)で、「てしまう(ちゃう)」の使用数は2554例で、前接動詞の異なり語数は378個である。その前接動詞の上位20個を表2に示す。

表2 CEJC+現日研・職場談話コーパスの「てしまう(ちゃう)」の前接動詞(上位20個)

No.	前接動詞	数(割合)	No.	前接動詞	数(割合)
1	<u>成る(なる)</u>	491(19.2%)	11	<u>言う</u>	43(1.7%)
2	<u>為る(する)</u>	233(9.1%)	12	<u>死ぬ</u>	41(1.6%)
3	<u>行く</u>	97(3.8%)	13	<u>思う</u>	40(1.6%)
4	来る	76(3.0%)	14	入れる	37(1.4%)
5	<u>忘れる</u>	58(2.3%)	15	<u>出る</u>	35(1.4%)
6	入る	57(2.2%)	16	終わる	34(1.3%)
7	遣る(やる)	54(2.1%)	17	取る	31(1.2%)
8	<u>無くなる</u>	51(2.0%)	18	出す	25(1.0%)
9	食べる	45(1.8%)	19	買う	23(0.9%)
9	止める	45(1.8%)	20	切る	19(0.7%)
	カバー率	47.30%		カバー率	60.10%

表2から、母語話者の会話・談話データにおける「てしまう(ちゃう)」に前接する動詞上位10個のカバー率は47.3%で、上位20個のカバー率は60.1%であることが分かる。中俣(2014)では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)における「てしまう(ちゃう)」の前接動詞10個(カバー率は29.1%)を挙げているが、その動詞10個のうち、9個が本調査の会話・談話データ上位20個に入っており(下線付き動詞)、残り1個は「消える」で10例使われている。よって、話し言葉・書き言葉を問わず、母語話者の使用状況では、上記の動詞は「てしまう(ちゃう)」に前接する典型的な動詞と言えよう。前接動詞には、移動を表す動詞「行く、来る、入る、出る、出す、入れる」、消失概念を表す非意志動詞「忘れる、なくなる、死ぬ」が上位に入っている。なお、カバー率で見ると、書き言葉より、話し言葉のほうは「てしまう(ちゃう)」の前接動詞がより一部の動詞に限定されるようである。

次に、「ちゃう」「てしまう」別に見て、両者の前接動詞の傾向を観察する。

表3 CEJC + 現日研・職場談話コーパスの「ちゃう」VS「てしまう」の前接動詞（上位15個）

ちゃう (362種、2441例)		てしまう (60種、113例)		
No.	前接動詞	数 (割合)	前接動詞	数 (割合)
1	<u>成る</u>	470 (19.3%)	成る	21 (18.6%)
2	<u>為る</u>	220 (9.0%)	為る	13 (11.5%)
3	<u>行く</u>	93 (3.8%)	入れる	4 (3.5%)
4	来る	75 (3.1%)	行く	4 (3.5%)
5	<u>入る</u>	54 (2.2%)	遣る	4 (3.5%)
6	<u>忘れる</u>	54 (2.2%)	忘れる	4 (3.5%)
7	<u>遣る</u>	50 (2.0%)	入る	3 (2.7%)
8	<u>無くなる</u>	49 (2.0%)	認める	2 (1.8%)
9	食べる	45 (1.8%)	言う	2 (1.8%)
10	<u>止める</u>	43 (1.8%)	埋まる	2 (1.8%)
11	<u>言う</u>	41 (1.7%)	聞く	2 (1.8%)
12	思う	40 (1.6%)	止める	2 (1.8%)
13	死ぬ	40 (1.6%)	無くなる	2 (1.8%)
14	出る	35 (1.4%)	終わる	2 (1.8%)
15	<u>入れる</u>	33 (1.4%)	曲がる	1 (0.9%)
	カバー率	55.0%	カバー率	60.2%

表3から会話・談話では、母語話者は「ちゃう」を「てしまう」より多く使用し（2441例：113例）、前接動詞の種類も豊富（362種：60種）であることが分かる。一方、両者に共通した動詞が多く、上位15個中共通した動詞が10個（下線付き動詞）見られる。以下例（3）～（6）はCEJCでの使用例である。

- (3) 宮古島とか永良部島ってゆう島だよ # ああ # ジツ実家まで行っちゃった。
(CEJE: T013_015 17430)
- (4) こないだのお話ですとー、しんちゃんは首輪を切って、どっか行ってしまっ
て、そいで、帰ってきた、んでしょ、一度。(CEJE: F10A131 650)
- (5) あっ、でも後で忘れちゃいそうだから出しとこう。(職場談話: F18A011 25730)
- (6) 寝食を忘れてしまうの # 最初にもたついてるとさー、忍耐力がなくなっ
てきちゃうな、これが。(職場談話: F06Q011 9040)

本節では、母語話者の「てしまう」「ちゃう」の前接動詞の傾向を見た。次節では「てしまう」「ちゃう」の後続形式の特徴を見る。

4.1.2 母語話者の「てしまう」「ちゃう」の後続形式の特徴

表4には、CEJC + 現日研・職場談話コーパスの「ちゃう」「てしまう」の後続形式を示している。表4から、「ちゃう」の後続形式上位15個のカバー率は90%に上り、「てしまう」の後続形式上位15個のカバー率は94%に上ることが分かる。「ちゃう」「て

しまう」の後続形式で最も多いのはいずれも「た」で、35%前後を占めている。次いでは「て」「の」の順となっている。「て」が「ちゃう」に後続する割合は13%であるのに対し、「てしまう」に後続する割合は25%に上る。一方、縮約形「てる」は「ちゃう」に後続する例は141例(5.8%)であるのに対し、「てしまう」に後続する例は1例のみ(欄外)である。また、「ちゃう」に後続する形式は「から、よ、か、じゃん、ね」のように、口頭表現で文末に話者の気持ちを伝える接続助詞・終助詞が続く傾向がやや強いことが分かる。「ちゃう」は文末部で「ちゃった」「ちゃってる」「ちゃうよ」などの形式で文を終えているのに対し、「てしまう」は中止形で複文の前節を終え、後節が続く形、また名詞(形式名詞)を後続させて使われる傾向があることが分かる。

表4 CEJC + 現日研・職場談話コーパスの「ちゃう」VS「てしまう」の後続形式(上位15個)

No.	ちゃう		てしまう	
	後続形式	数(割合)	後続形式	数(割合)
1	た(ました)	837(34.79%)	た(ました)	42(36.84%)
2	て	320(13.30%)	て	29(25.44%)
3	の	272(11.31%)	の	7(6.14%)
4	てる	141(5.86%)	と	6(5.26%)
5	と	129(5.36%)	ば	4(3.51%)
6	から	103(4.28%)	。	3(2.63%)
7	よ	77(3.20%)	ます	2(1.75%)
8	か	54(2.24%)	人	2(1.75%)
9	ます	46(1.91%)	事	2(1.75%)
10	。	44(1.83%)	物	2(1.75%)
11	ば	42(1.75%)	って	2(1.75%)
12	たり	32(1.33%)	みたい	2(1.75%)
13	じゃん	24(1.00%)	だ	2(1.75%)
14	ね	22(0.91%)	様	1(0.88%)
15	って	21(0.87%)	たい	1(0.88%)
	カバー率	89.94%	カバー率	93.86%

4.1節では、CEJC + 現日研・職場談話コーパスのデータを用いて、母語話者の「てしまう」「ちゃう」の使用特徴を分析した。次の4.2節では、学習者の横断的データ(I-JAS)を利用して、母語話者と学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用特徴を比較分析する。

4.2 学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用特徴

本節では、日本語学習者の横断的データ(I-JAS)における「てしまう(「ちゃう」)」の使用状況を見る。本稿は13言語母語学習者と日本国内教室環境学習者、日本国内自然習得学習者、母語話者を各50名、計800名の使用データ(7タスク)を分析対象とする。

4.2.1 母語・環境別、習熟度別に見る「てしまう」「ちゃう」の使用頻度

表5に I-JAS における調査対象者の習熟度別人数、「てしまう（「ちゃう）」の使用者数を示す。

表5 I-JAS における調査対象者の習熟度別人数、「てしまう（「ちゃう）」の使用者数

母語・環境	入門	初級	中級	上級	総計	てしまう(「ちゃう」) の使用者数
インドネシア	0	7	43	0	50	48
スペイン	0	25	25	0	50	26
タイ	0	6	41	3	50	49
トルコ	1	16	31	2	50	22
ハンガリー	0	3	38	9	50	44
フランス	0	14	36	0	50	23
ベトナム	0	22	28	0	50	40
ロシア	0	5	41	4	50	39
韓国	0	2	27	21	50	44
国内教室環境	0	7	40	3	50	34
国内自然習得	5	16	25	4	50	30
台湾	0	0	39	11	50	45
中国	0	0	41	9	50	34
独・オーストリア	0	11	37	2	50	39
米・豪	0	15	35	0	50	27
学習者計	6	149	527	68	750	544
日本語母語話者	-	-	-	-	50	50

I-JAS における「てしまう」「ちゃう」の母語・環境別使用頻度を図1に示す。

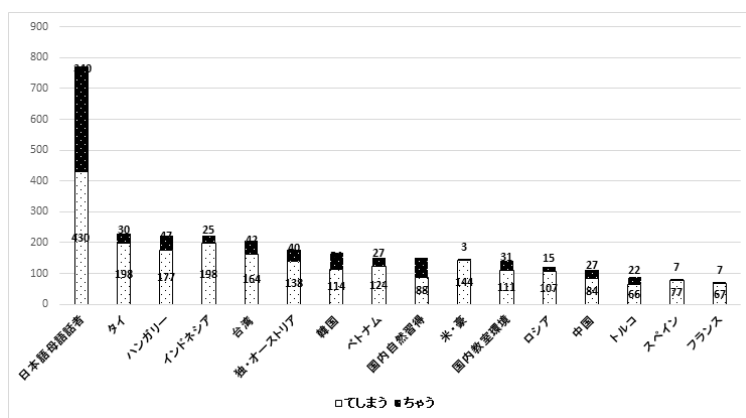


図1 I-JAS における「てしまう」VS「ちゃう」の母語・環境別使用頻度

表5から分かるように、日本語母話話者50名全員「てしまう（「ちゃう）」」を使っているのに対し、学習者750名中、544名が「てしまう（「ちゃう）」」を使っており、学習者は「てしまう（「ちゃう）」」を一回でも使用した人の割合は72.5%にとどまる。学習者50名ずつの15グループ中で、トルコは22名、フランスは23名、スペインは26名、米・豪は27名しか「てしまう（「ちゃう）」」を使用していない。

図1から分かるように、「てしまう（「ちゃう）」」の使用頻度は、母話話者50名で770回であるのに対し、学習者750名で2297回にとどまる。どの母語環境の学習者の使用数も母話話者の3割以下である。「てしまう」に関しては、タイ、インドネシア、ハンガリー、台湾の学習者は母話話者の使用頻度の4割前後に達している。一方、「ちゃう」の使用頻度は、どの母語の学習者も母話話者の2割以下である。くだけた場面で使われる「ちゃう」が習得されていない学習者が多いことが分かる。

次に、母語・環境別に「てしまう」「ちゃう」の使用割合を見てみる。図2に母語・環境別に「てしまう」「ちゃう」の使用割合を示す。

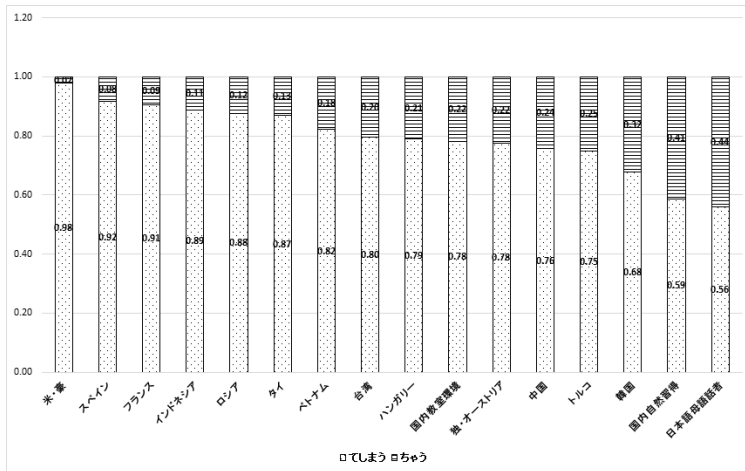


図2 母語・環境別に見る「てしまう」VS「ちゃう」の使用割合

図2から分かるように、「ちゃう」が「てしまう（ちゃう）」の使用数に占める割合（選好率と呼ぶ）は、母話話者が44%で最も高い。次いで、国内自然習得環境の学習者で41%である。米・豪、スペイン、フランス、インドネシア、ロシア、タイ語を母語とする学習者は「ちゃう」の選好率は10%前後にとどまっている。学習者全体で見ると、「ちゃう」の選好率は20%にとどまる。よって、くだけた場面で使われる「ちゃう」が習得されていない学習者が多く、学習者は教室で習う規範的な「てしまう」を相対的に多く使用していることが分かる。国内自然習得環境学習者の「ちゃう」の選好率は母話話者に近いのは、日常生活で母話話者が話し言葉で多用される「ちゃう」によく見聞きするというインプット機会があるうえ、教室で教材や教員から規範的な「てしまう」を叩き込まれるという環境にないことが影響していると考えられる。海外環境にいる学習者は「ちゃう」の使用割合が低いのは、日常的に日本語母話話者・テレ

び番組などからのインプットを受ける機会が少ないことの影響であろう。

また、習熟度別に「てしまう(ちゃう)」の一人当たりの使用数を見る。なお、学習者の日本語のレベル判定は SPOT³⁾の得点を参考に30点以下を入門、31~55点を初級、56~80点を中級、81~90点を上級とした。図3で習熟度別に「てしまう(ちゃう)」の一人当たりの使用数を示す。

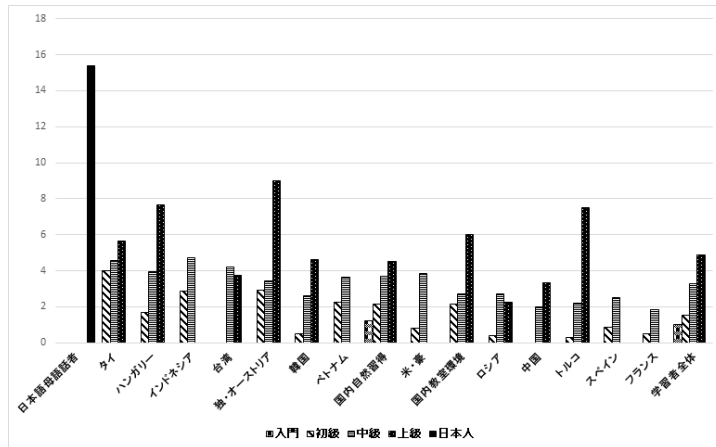


図3 習熟度別に見る「てしまう(ちゃう)」の一人当たりの使用数

図3から、レベルが上がるにつれ、台湾を除いてどの母語の学習者も「てしまう(ちゃう)」の使用数は増える傾向にあることが分かる。また、母語話者と比較して、13言語母語学習者全体の習熟度別平均使用数を見ると、入門(1) < 初級(1.52) < 中級(3.28) < 上級(4.88) < 母語話者(15.4)の順となり、上級レベルになっても、一人当たりの使用数は母語話者の三分の一にも満たないことが分かる。

4.2.2 学習者の「てしまう」「ちゃう」の前接動詞の特徴

本節では、I-JASにおける学習者の使用した「てしまう」「ちゃう」の前接動詞の特徴を見る。表6にI-JASにおける「てしまう(「ちゃう)」前接動詞(上位15個)を示す。

表6 I-JASにおける「てしまう(「ちゃう)」に前接する動詞(上位15個)

No.	学習者(750名)		学習者1/15(50名)	母語話者(50名)	
	前接動詞	数(割合)		前接動詞	数(割合)
1	食べる	470(22.1%)	31.3	成る	126(18.9%)
2	忘れる	265(12.5%)	17.7	為る	52(7.8%)
3	入る	216(10.2%)	14.4	入る	50(7.5%)
4	寝る	203(9.6%)	13.5	来る	33(5.0%)
5	成る	162(7.6%)	10.8	寝る	25(3.8%)
6	為る	60(2.8%)	4.0	行く	23(3.5%)
7	死ぬ	51(2.4%)	3.4	忘れる	21(3.2%)
8	出る	42(2.0%)	2.8	食べる	20(3.0%)

9	行く	37(1.7%)	2.5	見分かる	12(1.8%)
10	無くなる	36(1.7%)	2.4	終わる	12(1.8%)
11	起きる	25(1.2%)	1.7	入り込む	11(1.7%)
12	来る	23(1.1%)	1.5	無くなる	11(1.7%)
13	亡くなる	21(1.0%)	1.4	言う	9(1.4%)
14	見る	20(0.9%)	1.3	思う	9(1.4%)
15	逃げる	18(0.8%)	1.2	見る	8(1.2%)

共通タスクのため、表6から、前接動詞には学習者と母語話者で共通するものが多いことが分かる。学習者の使用頻度が高い前接動詞は「食べる、忘れる、入る、寝る、なる」で、母語話者の使用頻度が高い前接動詞は「なる、する、入る、(～)くる、忘れる、食べられる」などである。また、頻度が低いため、表6には反映されていないが、学習者のみ使っている前接動詞には「壊れる(15)、食う(12)、辞める(10)、飛ぶ(10)、消える(9)、飛び出す(9)、起こす(7)、倒れる(7)、嘔む(7)、間違う(7)、間違える(6)、迷う(6)」などがある(括弧内は使用頻度)。「リーディングチュウ太」⁴⁾でこれらの語彙レベルを判定した結果、「食う、辞める、飛び出す、間違う、迷う」はN2かN3レベルで、「壊れる、起こす、倒れる、嘔む、間違える」はN4レベルで、「飛ぶ、消える」はN5レベルの語彙で、これらは比較的難易度の低い語彙であることが分かる。

上記の学習者のみ使っている前接動詞の用例を見てみると、次のような不自然な使用が見られる。(7)は犬を主語として述べており、「食べられてしまいました」に修正したほうが自然である。(8)は「台無しになってしまった」、(9)は「こじれてしまう」のように修正したほうがよい使用例である。

- (7) 犬はバスケットの中の食べ物を食ってしまいました。#とても残念でした。
(GAT03-SW1)
- (8) 楽しい旅行は、全部犬で、壊れてしまった。(JJE33-ST1)
- (9) そのええと人間関係が、ええと壊れてしまうってゆう気持ちがありますので…。(EUS14-I)

母語話者がよく使っているにもかかわらず、平均して学習者がさほど使用していない前接動詞は「する、(～)くる、(～)行く、終わる、見分かる、入り込む、見分かる」などである。また、頻度が低いため、表6には反映されていないが、日本語母語話者のみ使っている前接動詞は「呼び止められる(7)、落っこちる(4)、読む(4)、受ける(4)、売る(3)、職務質問される(3)、注意される(3)、咎められる(2)、つく(2)、あたる(2)、潜り込む(2)、かじられる(2)、途絶える(2)、始まる(2)、あつまる(2)」などである。「リーディングチュウ太」でこれらの語彙レベルを判定した結果、「落っこちる、潜り込む」は級外語彙で、「呼び止める、咎める、途絶える」はN1語彙であり、本研究の学習者は中級・初級レベルの人が多く、こういった語彙については海外学習環境の学習者は習得できていない可能性が高い。

複合動詞、「てくる」「ていく」のような補助動詞は、学習者はさほど使用していない。

「受身+てしまう(ちゃう)」といった複雑な形式に関しては、母語話者はいろいろな動詞に付けて頻繁に使っているが、学習者は「食べられる、見られる、言われる、怒られる」のような、タスク達成に欠かせない受身表現しか使っていない。

次に、I-JAS における母語話者と学習者がそれぞれ使用した「ちゃう」の前接動詞の特徴を分析し、母語話者と学習者の使用に違いが見られるのかを検討する。表7に I-JAS における母語話者と学習者が使っている「ちゃう」の前接動詞(上位15個)を示す。

表7 I-JAS における「ちゃう」の前接動詞(母語話者 VS 学習者)(上位15個)

No.	母語話者	数(割合)	学習者	数(割合)	学習者1/15(50名)
1	成る	63(19.6%)	忘れる	79(19.0%)	5.3
2	為る	33(10.2%)	成る	65(15.6%)	4.3
3	来る	19(5.9%)	食べる	45(10.8%)	3.0
4	行く	14(4.3%)	入る	29(7.0%)	1.9
5	忘れる	11(3.4%)	行く	16(3.8%)	1.1
6	寝る	11(3.4%)	為る	15(3.6%)	1.0
7	終わる	7(2.2%)	無くなる	14(3.4%)	0.9
8	言う	6(1.9%)	寝る	10(2.4%)	0.7
9	思う	6(1.9%)	逃げる	9(2.2%)	0.6
10	入る	5(1.6%)	止める	6(1.4%)	0.4
11	疲れる	5(1.6%)	出る	6(1.4%)	0.4
12	考える	5(1.6%)	死ぬ	6(1.4%)	0.4
13	食べる	5(1.6%)	壊れる	4(1.0%)	0.3
14	見る	5(1.6%)	見付かる	4(1.0%)	0.3
15	落っこちる	4(1.2%)	泣く	4(1.0%)	0.3
		
	総計	322	総計	416	

表7から、I-JAS における母語話者の使用する「ちゃう」の前接動詞は「成る、する、来る、行く、忘れる、寝る」の順となっており、それに対し、学習者は「忘れる、なる、食べる、入る、行く、する、無くなる」の順となっていることが分かる。50名あたりの使用数で見ると、学習者は母語話者よりはるかに少ない。

両者とも「なっちゃう」が上位に来ているが、学習者が使用している「なっちゃう」の前に来る成分は「好きに、嫌いに、忙しく、恐ろしく、面白く、やばく+なっちゃう」という話者の感覚・感情の変化を表出している。一方、母語話者が使用している「なっちゃう」の前に来る成分は「二十歳に、行きつけに、喧嘩に、書きたく、使えなく、遊びに+なっちゃう」のように、事態・状態のマイナス方向への変化を表しているものが多い。学習者は「忘れちゃった」を最も多く使っているが、一つはST(SW)2タスクで「鍵を忘れちゃった」と表現しているのが28例で、あとは対話タスクで自分の言おうとした事・言葉を「忘れちゃった」と表出しているものである。学習者は「食べちゃった」も45例使っているが、そのうち40例はST(SW)1タスクで、「犬が食べ

物を食べちゃった」というように、本来は「食べ物は犬に食べられた」ことを描写するのに、「犬」を主語にして能動文で表出するという不自然な文となっている。それに対して、母語話者は「犬が食べ物を食べちゃった」という使用例は見られない。

また、頻度が低いため、表7には反映されていないが、学習者のみ「逃げちゃう(9)、止めちゃう(6)、死んちゃう(6)、壊れちゃう(4)、見付かっちゃう(4)、倒れちゃう(4)」などと表現している。それに対し、母語話者のみ「考えちゃう(5)、落っこちちゃう(4)、使っちゃう(4)」などと使っている。

さらに、I-JASにおける母語話者と学習者それぞれが使用した「てしまう」の前接動詞の特徴を分析し、母語話者と学習者の使用に違いが見られるのかを見る。表8にI-JASにおける母語話者と学習者が使っている「てしまう」の前接動詞(上位15個)を示す。

表8 I-JASにおける「てしまう」の前接動詞(母語話者 VS 学習者)(上位15個)

No.	母語話者	数(割合)	学習者	数(割合)	学習者1/15(50名)
1	成る	63(18.4%)	食べる	425(24.9%)	28.3
2	入る	45(13.1%)	寝る	193(11.3%)	12.9
3	為る	19(5.5%)	入る	187(11.0%)	12.5
4	食べる	15(4.4%)	忘れる	186(10.9%)	12.4
5	寝る	14(4.1%)	成る	97(5.7%)	6.5
6	来る	14(4.1%)	為る	45(2.6%)	3.0
7	見付かる	12(3.5%)	死ぬ	45(2.6%)	3.0
8	忘れる	10(2.9%)	出る	36(2.1%)	2.4
9	入り込む	10(2.9%)	起きる	23(1.3%)	1.5
10	無くなる	9(2.6%)	無くなる	22(1.3%)	1.5
11	行く	9(2.6%)	亡くなる	21(1.2%)	1.4
12	終わる	5(1.5%)	行く	21(1.2%)	1.4
13	慣れる	4(1.2%)	見る	19(1.1%)	1.3
14	掛かる	4(1.2%)	来る	19(1.1%)	1.3
15	出来る	4(1.2%)	飛び込む	14(0.8%)	0.9
		
	総計	343	総計	1706	

表8から、I-JASにおける母語話者の使用している「てしまう」の前接動詞は「成る、入る、する、食べる、寝る、来る」の順となっており、それに対し、学習者は「食べる、寝る、入る、忘れる」の順となっていることが分かる。

学習者は「食べてしまう」を425例使っているが、そのうち421例はST(SW)1タスクで、「犬が食べ物をたべてしまいました」というように、本来は「食べ物は犬に食べられた」ことを描写するのに、視点を犬に移して「犬」を主語に据えて能動文で表出するという不自然な文となっている(例10)。母語話者は「犬が食べ物を全部食べてしまった(ている)ことに気づく」のような表現が13例あり、視点がピクニックに行く二人にあることが分かる(例11)。

- (10) 犬が全部の食べ物を食べてしまいました。(EUS24-SW1)
- (11) 犬がサンドイッチと林檎をたべてしまっていることに気づき、二人はとても残念そうでした。(JJJ13-SW1)

学習者は「忘れてしまう」を193例使っているが、そのうち116例はST(SW) 2タスクで「鍵を忘れてしまった」ことを表現している。残りの使用例は対話タスクで「単語、言葉、日本語、名前」を忘れ、言えないことを表出するために「忘れてしまった」と表現しているものが多い。

また、頻度が低い表8には反映されていないが、学習者のみ「起きてしまう(23)、壊れてしまう(11)、食ってしまう(11)、飛び出してしまう(9)、「など」などと表現している。それに対し、母語話者のみ「受けてしまう(3)、潜り込んでしまう(3)、途絶えてしまう(2)、読んでしまう(2)」などを使っている。学習者の「起きてしまう」22例はST(SW)2タスクでマリが騒ぎを聞いて起きたことを表現するのに使っている(例12)。早く目覚めたほうがいいこの場面では「起きた」と表現すれば十分で、あるいは「目が覚めた」と言えば十分である。もし起きたくなかったのに、騒ぎ声で目が覚めた意味を伝えるのであれば「起こされた」と、受け身文で被害を受ける意味を表出したほうが自然である。また、例(12)では学習者は「起こされた」という残念な気持ではなく、単に「起きる」動作が完了したと表現しようとして、本来「起きた」と言えばいいところを「てしまう」を過剰使用した可能性もある。

- (12) あまりにうるさかった、マリがやっと起きてしまった。(JJN13-SW2)

表7、表8から、I-JASにおける学習者の「てしまう」「ちゃう」の前接動詞を観察すると、学習者は「忘れちゃう、～なっちゃう」、「食ってしまう、寝てしまう」を特徴的に多く使っている傾向が見られるようである。

4.2.3 学習者の「てしまう」「ちゃう」の後続形式の特徴

本節では、I-JASにおける学習者の使用した「てしまう」「ちゃう」の後続形式の特徴を見る。まず、母語話者と比較するために、表9にI-JASにおける学習者と母語話者の「てしまう(ちゃう)」の後接形式(各上位10個)を示す。

表9 I-JASにおける「てしまう(ちゃう)」の後接形式(各上位10個)

No.	学習者(750名)		母語話者(50名)	
	後続形式	数(割合)	後続形式	数(割合)
1	た(ました)	1836(79.6%)	た(ました)	228(35.1%)
2	て	227(9.8%)	て	128(19.7%)
3	ます	54(2.3%)	の	80(12.3%)
4	の	46(2.0%)	ます	34(5.2%)

5	、	29(1.3%)	と	31(4.8%)
6	まして	25(1.1%)	てる	31(4.8%)
7	と	23(1.0%)	たり	24(3.7%)
8	か	18(0.8%)	、	13(2.0%)
9	事	9(0.4%)	か	12(1.8%)
10	てる	7(0.3%)	様	8(1.1%)
	カバー率	98.60%	カバー率	90.50%

表9から、学習者の「てしまう(ちゃう)」後続形式上位10個のカバー率は98%に上り、日本母語話者の「てしまう(ちゃう)」の後続形式上位10個のカバー率は90%に上ることが分かる。日本母語話者の「てしまう(ちゃう)」の後続形式では、「た(ました)」が35%にとどまるのに対し、学習者の「てしまう(ちゃう)」の後続形式は「た(ました)」だけで80%に上り、学習者が「てしまった(てしまいました)」「ちゃった」形式を多用していることが分かる。また、「てる」を後続形式としている割合は、母語話者が4.8%であるのに対し、学習者は0.3%にとどまっており、学習者は「てしまっている、ちゃっている」などの形式をほとんど使っていないことが分かる。「て」を後続形式として他の文成分が続く割合は、母語話者が20%であるのに対し、学習者は「まして」を入れても11%にとどまっており、母語話者は中止形「てしまって」で話をいったん止め、さらに続ける場合が多いのに対し、学習者はそれが少ないことが分かる。後続形式をまとめると、学習者の使用が過去形に偏り、母語話者は過去形以外にも多様な形式を後続させていると言えよう。

次に、表10にI-JASにおける学習者の「てしまう」VS「ちゃう」の後接形式を示す。

表10 I-JASにおける「てしまう」VS「ちゃう」の後接形式(学習者)(上位10個)

No.	ちゃう		てしまう	
	後続形式	数(割合)	後続形式	数(割合)
1	た(ました)	248(57.8%)	た(ました)	1556(84.3%)
2	て	101(23.5%)	て	124(6.7%)
3	ます	21(4.8%)	ます	65(3.5%)
4	の	18(4.2%)	、	26(1.4%)
5	か	13(3.0%)	の	26(1.4%)
6	と	8(1.9%)	と	15(0.8%)
7	、	4(0.9%)	事	6(0.3%)
8	事	3(0.7%)	から	5(0.3%)
9	てる	3(0.7%)	か	4(0.2%)
10	し	2(0.5%)	。	3(0.2%)
	カバー率	98.01%	カバー率	98.27%

表10から、学習者による「ちゃう」の過去形の使用割合は57.8%であるのに対し、「てしまう」の過去形の使用割合は84.3%に上ることが分かる。中俣(2018:68)では、中国語を母語とする日本語学習者が「てしまう」をタ形でのみ多用し、その中でも「ちゃった」という縮約形を多用し、学習者が「ちゃった」「てしまった」をひと

ままとりの「チャンク」として覚えていると指摘している。しかし、本稿では、「てしまう」の過去形の使用割合が「ちゃう」の過去形の使用割合より高いという結果となっている。また、学習者は「てしまって～」(6.7%)よりも「ちゃって～」(23.5%)を使う割合が高く、「ちゃって」の後ろにインタビューアの「うん」「はい」「あー」などの発話挿入が多く見られる。

5 結論

本稿では、母語話者と学習者の「てしまう」「ちゃう」の使用傾向を比較分析し、学習者の母語・環境別、習熟度 (SPOT 得点) 別の使用特徴を探った。また、「てしまう」「ちゃう」の前接動詞、後続形式という視点から、母語話者と学習者の使用特徴を分析した。その結果、以下の使用実態が明らかになった。

1. 母語話者の会話・談話データでは、「てしまう (「ちゃう」)」の前接動詞には移動を表す動詞、消失概念を表す動詞がよく使われる。また母語話者は「ちゃう」を「てしまう」より多く使用し、前接動詞の種類も豊富である。後続形式では、「ちゃう」は文末に話者の気持ちを伝える接続助詞・終助詞が続く傾向がやや強く、文末部で「ちゃった」「ちゃってる」「ちゃうよ」などの形式で文を終えるのに対し、「てしまう」は中止形で複文の前節を終え、後節が続く形、また名詞 (形式名詞) を後続させる形で使う傾向がある。
2. 学習者は母語話者に比べ、「てしまう (「ちゃう」)」の使用頻度が低く、とりわけくだけた場面で使われる「ちゃう」の使用頻度が低く、習得が進んでいない。その内訳を見ると、JFL は「ちゃう」の使用が非常に少なく、それに対し JSL は日常インプット量の影響で、「ちゃう」を比較的多く使用している。これにはインプット量の差が大きく影響していると思われる。
3. 習熟度別に見て、学習者はレベルが上がるにつれ、「てしまう (ちゃう)」の使用が増えるが、それでも母語話者に比べると使用頻度が低い。
4. 学習者のみ使用している「てしまう (ちゃう)」の前接動詞は比較的難易度の低い語彙で、初級・中級レベルの単純動詞が多いことが分かる。学習者は ST (SW) 1 タスクで、「犬が食べ物を食べてしまった (ちゃった)」というように、「犬」を主語にして能動文で表出するという不自然な文が多く見られる。I-JAS における学習者の「てしまう」「ちゃう」の前接動詞を観察すると、母語話者に比べ、学習者は「忘れちゃう、～なっちゃう」、「食べてしまう、寝てしまう」を特徴的に多く使っている傾向が見られる。
5. 学習者は「てしまった (てしまいました)」「ちゃった」のような過去形での使用が非常に多く、「てしまっている、ちゃっている」などの「テイル」形をほとんど使っていない。それに対し、母語話者は過去形以外にも「テ」形や他の文成分など多様な形式を後続させている。
6. 学習者は「てしまう」の過去形の使用割合は「ちゃう」より高く、「ちゃう」は

「ちゃって～」という形でいったん止まって、その後ろにインタビューアの「うん」「はい」「あー」などの発話挿入が多く見られる。

上記の使用実態から、教育現場では、規範形式の「てしまう」だけでなく、特に会話場面で意識的に「ちゃう」のインプットを増やし、「てしまっている、ちゃっている」などの「テイル」後続形式も含め、明示的な指導が求められる。

本稿では学習者の誤用状況、具体的な意味用法の習得状況の推移を考察できなかった。また学習者のデータ分析は I-JAS だけで論を進めているため、タスクの影響も大きいと思われる。ほかの学習者コーパスでの使用状況も分析する必要がある。今後の課題とする。

謝辞

本稿は、科学研究費補助金（若手研究）「中国人日本語学習者の習熟度別作文コーパス構築及び母語転移に着目した習得実態の研究」（課題番号：19K13242、研究代表者：趙海城）の研究成果の一部である。

注

- 1) 本稿は東アジア言語文化学会月例会での口頭発表に加筆修正したものである。
- 2) 藤森（2020）では、「ちゃった」は敬語として尾道地方など広島方言で広く使われるとしている。本稿ではこのような敬語用法としての「ちゃった」を考察対象外とする。また、本稿で言う「ちゃう」には「じゃう」を含むものである。
・先生、どこから来ちゃったん？（先生はどこからいらっかったか）という意味
- 3) 筑波大学で開発された短時間で日本語運用力を測定するテスト。SPOT は、言語知識と言語運用の両面から日本語能力を測定するものである（迫田 2016: 98）。
- 4) <https://chuta.cegloc.tsukuba.ac.jp/>

参考文献

- 市川保子（1997）『日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 一色舞子（2011）「日本語の補助動詞「てしまう」の文法化：主観化、間主観化を中心に」『日本研究』15、pp.201-221
- 江田すみれ・小西円（2008）「3種類のコーパスを用いた3級4級文法項目の使用頻度調査とその考察」『日本女子大学紀要』、pp.1-28
- 簡卉雯（2018）「日本語学習者の発話における「てしまう」の使用実態：日本語母語話者と比較」『Learner Corpus Studies in Asia and the World』3、pp.177-187
- 金田一春彦（1976）『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子（2016）「多言語母語の日本語学習者横断コーパス International Corpus of Japanese as a Second Language」『国語研プロジェクトレビュー』6巻3号、国立国語研究所、pp.93-110
- 杉本武（1991）「「てしまう」におけるアスペクトとモダリティ」『九州工業大学情報工学部紀要 人文・社会科学篇』4、pp.109-126
- 杉本武（1992）「「てしまう」におけるアスペクトとモダリティ（2）」『九州工業大学情報工学部紀要 人文・社会科学篇』5、pp.61-73
- 砂川有里子（2018）「中級以降で指導が必要なテシマウの用法について—学習者と母語話者の使用状況調査に基づく考察—」藤田保幸・山崎誠（編）『形式語研究の現在』、pp.479-499

- 棚橋明美 (1996) 「英語を母語とする日本語学習者における「～てしまう」の使用状況」『言語文化と日本語教育』12、pp.24-33
- 中俣尚己 (2014) 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』くろしお出版
- 中俣尚己 (2018) 「学習者話し言葉コーパス分析」森篤嗣 (著) 『日本語教育への応用 (コーパスで学ぶ日本語学)』朝倉書店
- 中山富子 (2015) 「補助動詞「～てしまう」の考察—談話の構造に注目して—」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』10、pp.1-19
- 藤本真理子 (2020) 「敬語は距離?—尾道の方言「ちゃった」を考える—」『尾道文学談話会会報』10、pp.93-99
- 松岡弘 (監修) 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク、pp.47-48
- 宮部真由美 (2018) 「中級・上級レベルの日本語にみられるシテシマウ—意見と説明を述べるテキストの用例を中心に—」『日本語／日本語教育研究』9、pp.39-54
- 守屋三千代 (1994) 「「シテシマウ」の記述に関する一考察」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』6、pp.49-70
- 山内博之 (2009) 『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房
- 山崎恵 (2016) 「談話における縮約形の意味・機能—「てしまう」をめぐる—」『姫路独協大学外国語学部紀要』29、pp.61-76

利用したコーパス・ツール

- 『日本語日常会話コーパス モニター公開版』(Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC) (データバージョン 2018.12) <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc.html>
- 『現日研・職場談話コーパス』(データバージョン 2018.03) <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/shokuba.html>
- 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(International Corpus of Japanese as a Second Language, I-JAS) (データバージョン 2019.05) <https://www2.ninjal.ac.jp/jll/lsaj/ihome2.html>
- 「中納言」<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- 「リーディングチュウ太」<https://chuta.cegloc.tsukuba.ac.jp/>